八頭郡小体研

２６年度のあゆみ　　研究主題

子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開

～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～

Ⅰ　研究主題について

子ども達が、自然に運動にのめりこみ、自分のできるようになった技のこつを友達に進んで教えあう。教えてもらった友達もできるようになりいっしょに喜び合う。そのような学習を教師の意図の下に系統立てて展開することをめざして、本研究主題を設定した。研究主題における『子どもたちの主体的な活動』とは、運動の楽しさや喜びを味わった経験が、次なる運動への欲求となった姿であると考え、『確かな力を培う』とは、運動の系統化のもと、指導すべき内容を明確にして、多様な運動経験、学びの経験、体力の向上が図られた姿としてとらえ設定した。副題には、～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～として、運動の特性に触れ、習得する喜び、共に仲間と学ぶ喜び、力いっぱい運動をする喜びを大切にした体育学習を研究し実践していった。

Ⅱ　研究の実際

平成26年4月16日（水）	【郡小教研指定研修】 ・　小教研体育・特活研究部組織・研究方針確認 ・　中・四国研究大会発表に向けての研究の方向性確認
平成26年5月27日(火)	【役員会】 ・　26年度八頭郡小体研方針確認 ・　26年度小教研第2回指定研修会授業実践確認
平成26年5月29日(木)	【県小体研臨時研究部長会】 ・　県小体研本年度の取り組み(中・四国鳥取大会に向けて) ・　分科会のテーマと助言者協議
平成26年6月30日（月）	【拡大研修委員会】 ・　夏季一泊研実施要綱確認 ・　26年度中・四国小学校体育研究大会発表確認
平成26年7月28日（月）	【郡小教研夏季特別研修会】 ・　中・四国研究紀要・プレゼンテーション最終確認 ・　中・四国及び夏季一泊研添付資料確認
平成26年8月11・12日	【鳥取県体育研究会一泊研修会】　中・四国プレ発表他
平成26年8月25日（月）	【郡体育・特別活動教育研究会拡大役員研修会】 ・　平成２６年鳥取大会最終確認（発表資料・プレゼンテーション・指導助言者派遣依頼・準備物当確認） ・　平成28年度　鳥取県体育研究大会　八頭大会方針確認
平成26年10月7日(火)	【若桜・八東ブロック】第2回指定研修会授業研究会事前研究会
平成26年10月24日(金)	【中・四国体育研究大会（鳥取大会)】県内実践発表
平成26年11月5日(水)	【郡小教研指定研修】
平成27年1月15日（木）	【役員会】平成28年度鳥取県体育研究大会（八頭大会）方向性確認

Ⅲ　まとめ

今年度中・四国小学校体育研究大会が鳥取県で開催されるに当たり、本研究部は、昨年度の中・四国小学校体育研究大会（山口）に引き続き、器械運動領域の実践発表を行った。研究主題のもと研究実践を積み重ねて行った発表の反響から、研究主題の方向性は確かなものであったことが感じられた。今後平成28年度に八頭郡で鳥取県体育研究大会が開催される。方向性としては、今年度の成果を生かして２年間の器械運動領域での実践をもとに、他の領域にも広げ研究を進め、平成２８年度に発表ができるように準備を進めていきたい。

実践事例

主体的な活動を通して課題解決していく体育学習
～第５・６学年「短距離走・リレー」の実践～

八頭町立隼小学校　露木　克久・大坪真由美

１　単元名　「走ってつなげ！」（短距離走・リレー）

２　授業づくりの構想

（１）運動の持つ特性

○ 短距離走は、自分の力を瞬時に発揮して全力で走ることによって、心が開放され、心地よさを感じることができる運動である。リレーは、スピードに乗ったバトンパスをしたり、個人の記録を伸ばしたりすることによってチームの記録を伸ばすことができる運動であり、個人とチームの両方が達成感を味わうことができる。

○ バトンを受け渡しするタイミングや、走り出す距離、走るフォームなどについてアドバイスしたり、話し合ったりすることで、仲間と関わりながら活動することができる。

○ 練習の仕方を知り、自分たちの課題に応じた練習方法や練習の場を選ぶことで、技能が高まる楽しさや喜びを味わうことができる。

（２）児童の実態

○ ５・６年生の児童は、男子５名、女子８名の合計１３名で体育学習を行っている。特に運動能力に優れているわけではないものの、体を動かすことは好きで、各種の運動に対して意欲的に取り組む。

○ 事前の意識調査では、短距離走・リレーともに好意的にとらえている傾向が分かったが、特性や気持ちよさを感じているとは言えない児童もいた。リレーでは、仲間と関わりながら運動することの楽しさを理由に挙げているものが多かった。

○ 中間休けいに行う全員リレーや、放課後の陸上練習の様子から、走るフォームが未完成であり、改善の余地があるように感じる。バトンパスは、スピードに乗ったバトンパスにはなっていない。

（３）キャリア発達を促すために育みたい能力・態度

結果を分析し、適した課題解決の方法に取り組む。（課題対応能力）

○リレーのタイムを短縮するという目標に向け、自分や自分のチームにおける課題を、考えたり話し合ったりする中で把握し、その課題を解決するための方法をこれまでの学習内容をもとにして選んだり、工夫したりして活動に結び付ける。

（４）　運動（学習内容）の系統性

第１・２学年		第３・４学年		第５・６学年
C　走・跳の運動遊び ア　走の運動遊び 距離や方向などを決めて走ったり、手でのタッチやバトンをパスする折り返しリレー遊びをしたり、段ボールや輪などの低い障害物を用いてのリレー遊びをしたりする。 （例示） ○30～50m程度のかけっこ ・いろいろな形状の線上等を蛇行して走ったり、まっすぐに走ったりすること。 ○折り返しリレー遊び、低い障害物を用いてのリレー遊び ・相手に手のひらを向けてタッチしたり、バトンを渡したり受けたりすること。 ・いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越えること。	→	C　走・跳の運動 ア　かけっこ・リレー 距離を決めて調子よく走ったり、走りながらバトンパスする周回リレーをしたりする。 （例示） ○40～60m程度のかけっこ ・いろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始めること。 ・前後に腕を大きく振って走ること。 ・まっすぐ前を見て体を軽く前傾させて走ること。 ○周回リレー ・テークオーバーゾーン内で、走りながらバトンパスをすること。 ・コーナーの内側に体を軽く傾けて走ること。	→	C　陸上運動 ア　短距離走・リレー 走る距離やバトンパスなどのルールを決めて競走したり、自己(チーム)の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら、一定の距離を全力で走ることができるようにする。 （例示） ○50～80m程度の短距離走 ・スタンディングスタートから、素早く走り始めること。 ・上体をリラックスさせて全力で走ること。 ○いろいろな距離でのリレー(1 人が走る距離 50～100m程度) ・テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスをすること。

（5）　単元の目標

【技能】一定の距離を全力で走ることができるようにするとともに、減速の少ないバトンパスができる。

【態度】運動に進んで取り組み、約束を守り、助け合って運動をしたり、場や、用具の安全に気を配ったりすることができる

【思考・判断】　自己(チーム)の能力や課題に適した解決の仕方を選んだり、考えたりするとともに、競走や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。

（6）　学びへの働きかけ（指導の意図）

《学習内容の明確化》

○　走るフォームのポイント、バトンパスの技能、課題に応じた練習の場の工夫などを掲示し、教え合いのもとにする。また、学習の中で見つけたポイントも記入していくことで、学びを共有していく。

○　トップスピードでバトンパスができることを、学習の最終的な姿として提示し、それに向かうための練習方法や場を考えさせる。

《学習過程の工夫》

○　学習①では、わたしたちの体育の「やってみよう」などの動きを取り入れ、走りの基礎となる動きを身につけさせる。

《言語活動の充実》

○　チーム全員の記録を合計したものを目標タイムに設定することで、バトンパスの完成度がそのままタイムの短縮につながることに気づかせる。さらに、教え合いや相談など、言語的な活動が充実するよう、単元後半では目標タイムから何秒縮めることができるかを競う場を設定する。

（7）単元の流れおよび評価の計画

		1	2	3	4	5	6（本時）	7
主なねらい		学習の進め方を理解しよう	色々な短距離走やリレーを取り上げ、走りやリレーに関わる動きの習得を図る。			活動①で習得した動きを活用して、目標記録を目指したリレーを行う。		
核となる学習内容		・学習のねらいと進め方 ・用具等の使い方 ・きまり、安全面	・体を前に倒し、腕を前後に大きく振る ・地面をける、かかとをお尻につける ・右手渡し左手もらい ・リレーのルール			・かけだし距離を意識した走りだし ・トップスピードでのバトンパス		
学習活動		・学習のねらいと進め方を知る ・用具等の使い方について知る。 ・きまり・学習の場・安全面について知る。 ・「やってみよう」を行う。 ・チーム分けのもとになるタイム（小トラック半周）を計測する。 ・ふりかえり	バトンパスへの動き作りをする（ネコとネズミ・タッチ追いかけ走・マーク追いかけ走） 活動①「走る力を高めよう」 ・走力を高める運動 （いろいろな姿勢からのダッシュ・８秒間走・小刻み走・ミニハードル走・向かい合い走） 活動②「バトンパスの仕方を工夫して、リレーをしよう」 ・いろいろなリレーの練習 （直線リレー・バトンパス・かけだしマーク） ・ふりかえり			活動①「チームで選んだ練習をしよう」 ・目標タイムの設定 ・課題の話し合い ・チームで選んだ練習に取り組む（練習①・②） 活動②「目標記録を決めて、リレーをしよう」 ・リレーを行う ・ふりかえり		・課題の話し合い ・チームで選んだ練習に取り組む ・リレーカーニバルin 集
評価の計画	関	④		③		②		①
	思		①	①		②	③	
	技				①		②	②

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
具体的な評価基準	①短距離走・リレーに進んで取り組むことができる ②約束を守り、友達と助け合って練習や競争をすることができる。 ③用具の準備や片づけ、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ④場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ることができる。	①走り方やバトンパスのポイントを知り、自分の力に応じた課題を選ぶことができる。 ②課題の解決の仕方を知り、提示された資料や教師の助言から、自分（チーム）の力に合った練習方法や練習の場を選ぶことができる。 ③友達の走りやバトンパスを見て、アドバイスしている。	①「やってみよう」や走力を高める運動をもとにして、一定の距離を全力で走ることができる。 ②自己（チーム）の記録の伸びを意識しながら、トップスピードに近い速さでバトンパスをすることができる

3　本時の学習（6/7）

（1）目標　友だちと声をかけ合いながら、進んでリレーの練習に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
自分のチームに適した練習方法を選んだり、友だちの走りやバトンパスに対してより良い方法をアドバイスしたりすることができる。（思考・判断）
トップスピードに近い速さで、前を向いてバトンを受けたり、渡したりすることができる。（技能）

（2）準備　アドバイスカード・ホワイトボード３つ・目印用のペットボトル・ビブス

（3）展開

学びの段階	学習活動と予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援　★評価（方法） ◆キャリア視点
ひらく	1　場の準備をする 2　向かい合い走・マーク追いかけ走 3　本時のめあての確認 スピードに乗ったバトンパスができるように、練習に取り組もう	○協力して、安全に準備させた後、チームごとに準備運動をさせる。（Ｔ１・Ｔ２） ○マーク追いかけ走では、バトンパスの動きとの関わりを考えさせながら取り組ませる。（Ｔ１）
できる	4　活動①「チームで選んだ練習をしよう」 ・練習を選ぶ もっとスピードを上げてバトンをもらえと言われた。 どの練習を選んだらよいのだろう バトンの動きがある練習を選ぼう。 前の時間の課題を見て決めよう。 ・決めた練習に取り組む うまくできているのかどうか分からない。 バトンが渡らない 渡す人のスピードは落ちてないかな。 どこを変えたら追いつくことができるかな。 スピードに乗ったバトンパスにはなっていない。 もっと良いバトンパスをするために、直すことはないだろうか。アドバイスカードを見てみよう。 どこに気を付けたら、トップスピードでバトンの受け渡しができるだろう。	○課題をもとにして、練習を２つ決めさせる。練習①と練習②としてホワイトボードに記入させる。（Ｔ１） ○選んだチームには、その練習でどんな課題を解決したいのか話し合わせる。（Ｔ１・Ｔ２） ○バトンパスが上手くできているか自分たちでチェックさせる。「２人の間がつまる→かけ出しマークを下げる」・「もらい手が渡し手を見ている→前を向いて走る」など、助言や話し合い用にアドバイスカードを使わせる。（Ｔ１・Ｔ２） ◆キャリア視点（課題対応能力） ★チームの課題を解決するために練習したり、声をかけ合ったりしている。【思】（話し合い・観察）
チャレンジする	5　活動②「目標記録を決めてリレーをしよう」 ・チームごとにタイム計測をする。 タイムを縮めるために気を付けることは何だろう もらい手は全力で走りだすことに気を付けて、渡し手はスピードを落とさないようにしよう。 今日の練習で一番気をつけたことはどんな事でしたか。	○前の時間の記録が更新できるようにアドバイスしたり、話し合わせたりする。（Ｔ１・Ｔ２） ○時間内は何度でも挑戦してよいことにする。 ★トップスピードに近い速さでバトンの受け渡しができている。【技】（観察）
ふりかえる	6　学習のまとめをする。 ・学習のふりかえりを発表する。	○技能の高まりや、良いアドバイスをしていた児童を紹介し、次時への意欲を高める。（Ｔ１）

4　成果（◎）と課題（▲）

◎　わたしたちの体育の「やってみよう」などの運動を用いて、走りやバトンパスの基礎となる動きが身に付くように取り組んだ結果、活動を楽しみながら技能の向上につながる動きを習得することができた。

◎　走るフォームのポイント、バトンパスの技能、課題に応じた練習の場の工夫などを掲示した結果、自分やチームの課題に応じた練習方法を話し合い、選んでいくといった主体的な学びが見られるようになった。それが、全校活動のリレーでの教え合いや、バトンパスの技能としても生かされた。

▲　バトンパスの技能向上がリレーのタイム短縮につながることが実感できると、さらに練習方法を工夫する姿が見られるようになると予想される。そのために、視覚的に見せる方 法を検討していきたい。